

## 京都ならではの STEAM 教育充実に向けた調査研究検討会議について

## 1 趣旨

明治維新による急激な人口減少で、都市存亡の危機に直面した京都の先人たちは、「まちづくりは人づくりから」と、「竈金(かまどきん)」と呼ばれる私財を出し合い、1869年(明治2年)に、日本初となる学区制小学校(番組小学校)を創設しました。この創設の原動力となった町衆の伝統と進取の気性、自治の精神は、京都の「ひらかれたまち柄」として脈々と継承され、「市民ぐるみ・地域ぐるみで一人一人の子どもを徹底的に大切にする」京都市教育の発展の基盤となっています。

番組小学校創設から100年経過した1969年(昭和44年)、人類が初めて月面に着陸し、科学の新たな歴史が幕を開ける中、「京都に名実ともに日本一の科学館を建設したい」という市民の願いと各界の皆様方の多大な御尽力により、『『科学者精神』を体得した将来の市民の育成』を設立目的とした「京都市青少年科学センター」が開館いたしました。以来、約55年にわたり、京都の大学や企業、博物館等関係機関、市民の皆様を支えられ、科学への興味や探究心を触発し、「科学する心」を育む拠点としての役割を果たしてきました。

一方、グローバル化の進展や AI(人工知能)技術の普及、自然災害など、時代の変化が複雑化・加速化の一途を辿る中、子どもたちをはじめとした一人ひとりが、時勢に翻弄されることなく、自然や歴史、文化に触れながら豊かで鋭敏な感性を育み、個性に応じて様々な事物を探究し続け、Well-being な人生の創造につながるような、夢中与感動に溢れた学びの場が求められています。

以上を鑑み、京都の「ひらかれたまち柄」の強みが最大限に生かされ、実社会での問題発見、その解決手法の模索、新たな価値の創造を志向する「京都ならではの STEAM 教育」の充実に向け、京都市青少年科学センターが、これまでの蓄積を大切にしつつ、その拠点たるに相応しい科学館へと飛躍を遂げるべく、調査研究を進めます。その一環として、今後の科学館としての「使命」や「あるべき姿」、「果たすべき機能」、「機能を実現するために必要な環境」等について、多角的な視点から議論を深めていただくため、検討会議を開催します。

## 2 今後の進め方

### (1) 検討会議のスケジュール

	日時	内容(予定)
第1回	2025年7月8日(火)	・ STEAM 教育の意義 ・ STEAM 教育の充実に向けた科学館への期待
第2回	2025年9月上旬頃	・ 科学館が果たすべき機能等
第3回	2025年12月上旬頃	・ 機能を実現するために必要な環境等
第4回	2026年2月下旬頃	・ 全体整理

### (2) ワークショップ「まちびとよりあい～京都で STEAM～」の実施

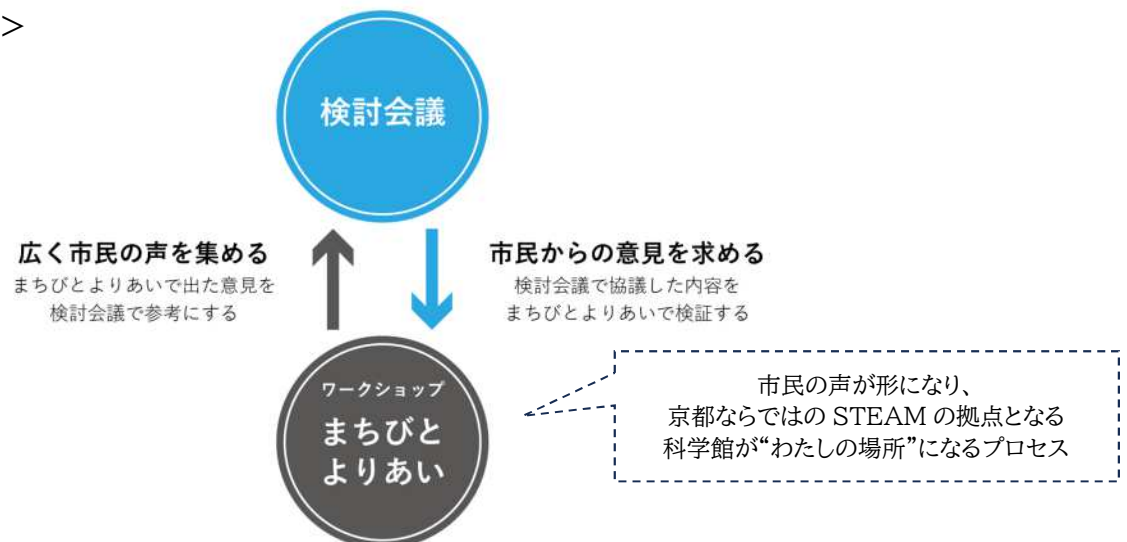
上記(1)と同時並行して、京都ならではの STEAM 教育、その充実に向けた科学館の姿などを市民と共に考えるワークショップを3回程度開催します(参加者は公募による)。

ワークショップの内容については、検討会議にフィードバックするなど、両者を往還させながら調査研究の充実を図ります。

#### <ワークショップの実施予定>

	日時	内容(予定)
第1回	2025 年 8 月 24 日(日)	「京都でできる STEAM って何だろう？」 →身近な体験や事例をもとに「STEAM のタネ」を見つける。
第2回	2025 年 9 月 7 日(日)	「京都ならではの STEAM の学びは？」 →京都の地域性を活かした STEAM の学びの空間や体験などのアイデアを広げる。
第3回	2025 年 11 月 9 日(日)	「京都で STEAM を育てていく仲間集め」 →第2回の内容の実現に向けた協働の輪を広げ、参加者が「どう関われるか」を宣言する。

#### <イメージ>



## 京都ならではのSTEAM教育充実に向けた調査研究 検討会議 開催要綱

### （設置）

第1条 京都ならではのSTEAM教育の拠点となる科学館の「使命」や「あるべき姿」、「施設のあり方」等を検討するために、様々な立場から幅広く意見を求めることを目的として、「京都ならではのSTEAM教育充実に向けた調査研究」検討会議（以下「検討会議」という。）を開催する。

### （委員）

第2条 検討会議に参加する委員は、学識経験のある者その他教育長が適当と認める者のうちから、教育長が就任を依頼する。

2 前項の規定により就任する委員の人数は、20名以内とする。

### （任期）

第3条 委員の任期は、就任した日から当該年度の3月31日までとする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

### （招集）

第4条 検討会議は、教育長が招集する。

### （座長の指名等）

第5条 教育長は、委員のうちから検討会議の座長を指名する。

2 座長は、検討会議の進行をつかさどる。

3 座長に事故あるときは、あらかじめ座長の指名した委員がその職務を代理する。

### （委員以外の者の出席）

第6条 教育長は、必要があると認めた場合は、委員以外の者に対し、検討会議に出席を求め、意見の陳述、説明その他必要な協力を求めることができる。

### （庶務）

第7条 検討会議の庶務は、京都市青少年科学センターにおいて行う。

### （委任）

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議の開催に必要な事項は、教育長が定める。

### 附則

#### （施行期日）

この要綱は、令和7年5月7日から施行する。

## 京都ならではのSTEAM教育充実に向けた調査研究検討会議 委員名簿

(区分内五十音順、敬称略)

区分	氏 名	所属・役職名等	第1回会議 出欠・参加方式
S T E A M 関 連 分 野 有 識 者	浅 川 智 恵 子	日本科学未来館 館長	出席・オンライン
	小 山 田 徹	京都市立芸術大学 学長	欠席
	塩 瀬 隆 之	京都大学総合博物館 准教授	出席・集合
	チースレロヴァー クリスティーナ	(公財)有斐斎弘道館 研究員/ 栖賢寺 茶頭	出席・集合
	仲 田 匡 志	(株)SOU代表取締役/ U35-KYOTO プロジェクトマネージャー	出席・集合
	野 口 範 子	同志社大学 生命医科学部 教授	出席・集合
	山 極 壽 一	総合地球環境学研究所 所長	出席・オンライン
経 済 団 体	細 川 万 理 子	京都商工会議所 産業振興部長	欠席
	本 永 治 彦	青少年と科学の会 代表代理/ (公社)京都工業会 専務理事	出席・集合
保 護 者	菊 田 め ぐ み	京都市PTA連絡協議会 庶務	出席・集合
学 校 関 係 者	岩 佐 峰 之	京都市立高等学校長会 会長/ 西京高等学校長	出席・集合
	小 滝 俊 則	京都市立中学校長会 会長/ 音羽中学校長	出席・集合
	齋 藤 麻 友 子	京都市立幼稚園長会 会長/ 伏見板橋幼稚園長	出席・集合
	清 水 美 穂 子	京都市立総合支援学校長会 会長/ 西総合支援学校長	出席・集合
	神 内 貴 司	京都市小学校長会 会長/ 下京雅小学校長	出席・オンライン
行 政	瀬 戸 口 烈 司	京都市青少年科学センター 所長	出席・集合
公 募 委 員	梶 本 大 雅	市民公募委員	出席・集合
	小 西 航 希	市民公募委員	欠席



## 「京都ならではのSTEAM教育充実に向けた調査研究検討会議」 傍聴要項

## 1 趣旨

この要綱は、京都市市民参加推進条例第7条に基づき、「京都ならではのSTEAM教育充実に向けた調査研究検討会議」の傍聴に関し必要な事項を定める。

## 2 傍聴手続

- (1) 会議を傍聴できる人数は、原則として10名とする。ただし、会場の都合によりその人数を制限することがある。
- (2) 会議を傍聴しようとする者は、会議開会予定時刻の10分前までに、予め指定する場所に集合しなければならない。
- (3) 次のいずれかに該当する者は、傍聴を許さない。
  - ア 酒気を帯びていると認められる者
  - イ 会議の妨害となると認められる器具等を携帯している者
  - ウ ア及びイのほか、座長において傍聴を不相当と認める者
- (4) 傍聴をしようとする者が、(1)に定める人数を超えるときは、抽選で傍聴人を決定する。

## 3 傍聴人の遵守事項

- (1) 傍聴人は、次の行為をしてはならない。
  - ア みだりに傍聴席を離れること。
  - イ 私語、談話又は拍手等を行うこと。
  - ウ 議事に批評を加え、又は賛否を表明すること。
  - エ 画像の撮影、録音等を行うこと。ただし、報道関係者等で予め座長の許可を受けたときを除く。
  - オ アからエまでのほか、会議の妨害となるような挙動を行うこと。
- (2) 傍聴人は、次のいずれかに該当する場合、速やかに退場しなければならない。
  - ア 会議を公開しないこととする決定があった場合。
  - イ この要項に違反し、座長が退場を命じた場合
- (3) (1) 及び (2) のほか、傍聴人は、座長の指示に従わなければならない。

## 4 その他

この要項に定めるもののほか、傍聴に関し必要な事項は、座長が定める。

本資料は、2050年を展望する長期ビジョン（次期総合計画）策定に向けた議論等を踏まえ、令和9年度までに取り組む政策等の今後の方針を示す「新京都戦略」の一部を抜粋したものです。

# 新京都戦略

～すべての人に「居場所」と「出番」がある

「突き抜ける世界都市 京都」の実現～



京都市  
CITY OF KYOTO

## 戦略の策定に当たって

### 新たな京都を切り拓く

人口減少社会において、京都が培ってきた**文化や精神性などのポテンシャルを最大限に活かし**、京都の価値や強みに共感する**多彩な人々が国内外からつどい、つながり、交ざり合う**ことで、新たな文化や産業を創出し、都市課題の解決、さらには**都市全体の魅力や活力を向上**させ、世界に京都ありと市民が胸を張れる新たな京都を切り拓く。

生まれた都市の活力を、**市民生活の豊かさの向上**につなげ、**より一層の好循環**を創出。

## 戦略の策定に当たって

### 新しい公共を推進

すべての人に「居場所」と「出番」があり、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる**ウェルビーイングなまち**へ。

**官と民、内と外の垣根を低くし、市役所・区役所が「結節点」としての役割を担い、市民、地域、NPO、企業、大学など多様な主体と対話を重ねて、つながりを深め、さらには外部有識者も含めて社会総がかりで共に課題の解決に協働して取り組む「新しい公共」（ニューパブリックコモンズ）を推進し、京都の未来を創造。**

## II 目指すまちの姿

すべての人に「居場所」と「出番」がある

「突き抜ける世界都市 京都」

- まち中に夢中になれるものが満ちあふれ、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる「ウェルビーイングなまち」
- 世界中から、京都の価値に共感する多彩な人々がつどい、市民、地域、企業などの多様な主体と交ざり合い、そのつながりから新たな価値を創造する「ぬか床のようなまち」
- 日本中、世界中の人々から、住みたい、働きたい、活躍したいと思われ、選ばれる「世界があこがれる唯一無二のまち」

### III 京都の価値・強み

「目指すまちの姿」の実現に不可欠な京都の本質的な価値・強み  
⇒ **京都の人やまちが長い歴史の中で培ってきた「まち柄」**

#### 文化・自然

- 歴史の中で育まれてきた市民の生活文化
- 類を見ない文化遺産
- 京町家が織りなす町並み景観
- 山紫水明と称される豊かな自然
- 水の恵みにより育まれてきた文化  
(茶道、華道、庭園、食など) など

#### 精神性

- 住民自治の伝統や支え合いの精神
- 冒険的な精神・進取の気風
- 優れたものづくりの技術、気質、職人
- 「おもてなし」の心
- イノベーションの源泉となる自由闊達なアカデミズム
- 本物を志向・追求する姿勢 など

#### 強み・特性

- 人口の約1割の学生が学ぶ、大学のまち
- どこかで人と人がつながる  
コミュニティの密度
- 職住近接のコンパクトなまち
- 喫茶店、書店、ギャラリー等、  
個性豊かな商いが至るところに存在する  
サロンのようなまち など



新たな挑戦を繰り返し、創造し続けてきたまち

## IV 戦略で重視する3つの視点

京都の価値・強みを踏まえ、3つの視点で戦略を推進

ひらく

開・拓

- 内と外の垣根を低くし、世界に開き、多様な人々がつどい・交ざり合うことで新たな価値を創造。
- 京都の未来を切り拓くため、まずは、市役所が変わる。しごとの仕方を変え、クリエイティブな仕事ができる職場へ変革。

きわめる

究・極

- 京都の本質的な価値を守り、育み続け、さらに新たな息吹を取り込み、学び、創造と革新を繰り返すことで、強みを磨き上げ、イノベーションを創発。
- 京都ならではの価値を創出し、きわめ、世界に唯一を目指す。

つなぐ

継・絆

- 自然、文化、コミュニティなど、京都の人とまちが紡いできた本質的な価値を未来へつなぐ。
- 人と人・地域の絆を大切にし、一人一人が尊重され、むすび、つながり、支え合う社会を構築。

## V リーディング・プロジェクト

### ひらく

- ①世界中からクリエイティブ人材が  
つどい・交じる「テラス」のまちプロジェクト
- ②公共空間をまちに開く  
パブリック「テラス」プロジェクト
- ③市民生活と「観光」の両立プロジェクト

### きわめる

- ④「世界に唯一」を目指し、知や技術を  
創発する企業立地促進プロジェクト
- ⑤世界にインパクトを与える  
スタートアップ創出・成長プロジェクト
- ⑥「千年の都から次の千年へ」  
文化継承・価値創造プロジェクト
- ⑦ まち中に「学芸」があふれるプロジェクト

### つなぐ

- ⑧市役所・区役所の  
「つなぐ」機能強化プロジェクト
- ⑨地域の「絆」で支え合う  
子育て応援プロジェクト
- ⑩京都固有の町並みを  
次世代に「つなぐ」プロジェクト
- ⑪「山紫水明の都」ならではの  
生物多様性・未来継承プロジェクト



## V リーディング・プロジェクト

### 1 ひらく

#### ② 公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト

(※1)

- 公園や学校、ホール、市役所前広場をはじめとする公共空間や、人々を癒し、コミュニティの中核をなす銭湯などの民間施設について、市民、地域、NPO、企業、大学などの多様な主体が活用しやすくなるよう見直し、開かれたテラスのように気軽につどい・つながり・交ざり合う機会を創出。

市民、地域、民間事業者等との双方向のコミュニケーションの下、行政のしごとを市民等にひらき、多様な主体が自分事として、満足度を持って公共にかかわることができるまちへ。

- 図書館における交流機能を高めるなど多機能化し、カフェなど居心地のよい第三の居場所（サードプレイス）づくりに取り組むとともに、さらには、新たなつながりや活躍の機会を創出し、価値や気づきに出会える場所（フォースプレイス）に。

(※2)

※1 テラスの本来の意味から派生し、「人と人、人と自然とを触れあわせ、内と外をつなぐ共有空間」という本市独自の意味で使用

※2 自宅、職場に続く、自分のお気に入りの場所というサードプレイス（第三の場所）に、さらに「つながり」を付加した場所

## V リーディング・プロジェクト

### 2 きわめる

#### ⑦ まち中に「学芸」があふれるプロジェクト

(※1)

- 学問、学びだけでなく、芸術・技芸があふれる唯一のまちを目指し、歴史、文化、大学の知が集積する京都のまちの強みを活かし、京都ならではの市立・府立高校の連携、高大連携等により、探究型学習、STEAM教育、演劇教育を実践、さらには起業家精神を醸成。次代を担う子どもたちの「生きる力」と「創造的な発想力」<sup>(※2)</sup>を養い、グローバルに活躍できる人材を育成。突き抜けた人材が学校教育で幅広く活躍できる場を提供。
- 生活の中に伝統と文化が息づくまちの強みを活かし、感性豊かな子どもの頃から、能・狂言など伝統芸能をはじめとする文化芸術、豊かな自然、ものづくりに直接触れる機会、世界に誇る食文化など京都ならではの多様な体験を得ることができる環境を整備。京都の文化芸術等を支え、継承・創造していく次世代の「担い手・支え手」の資質を育成（再掲）。
- 大学・学生が京都のまち全体をキャンパスに学びを深め、その力を地域活性化や社会課題解決に。学生の出会いと交流を通じた京都への愛着の醸成、市内就職・定住の促進、京都との関係の構築により、将来的な京都への定着を促進。

※1 学問と芸術・技芸（学問、学びだけでなく、芸術・技芸があふれるまちということを示す）

※2 科学、技術、工学、数学に重点を置くSTEM教育に、芸術等を加えた総合的な教育

本資料は、京都市教育の主な取組を掲載した「京都市の教育改革」冊子の一部を抜粋したものです。STEAMを構成する要素が色濃く表れている取組等には赤色の囲みを施しています。

市民ぐるみ・地域ぐるみで進める

# 京都市の 教育改革

目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、  
次代と自らの未来を  
創造する子ども

## 「番組小学校」創設の精神を今に、未来へ

京都は幕末から明治にかけ、人口が激減するという衰退の危機を迎えました。この時、京都の町衆は、「まちづくりは人づくりから」と子どものいるいないにかかわらず、竈のある家はすべて「竈金（かまどきん）」と呼ばれるお金を出し合い、地域の子どもたちが学ぶことができる64の小学校を創設し、運営を担いました。この日本最初の地域制小学校である「番組小学校」が誕生したのは、明治5（1872）年の国の学制発布に先立つ、明治2（1869）年のことです。以来、本市では、こうした歴史と伝統を礎に、子どもを社会全体で温かく育み、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を推進してきました。

今、「誰一人取り残さない」ことを誓い、2030年までに持続可能な社会を目指す国際目標SDGsの実現に向けた取組が、あらゆる分野で進められており、よりよい人生や社会の創り手を育む「教育」の果たす役割にも、大きな期待が寄せられています。

先人たちの伝統と進取の気風で培われてきた「はぐくみ文化」の下、本市ならではの有形無形の優れた文化が有する多様な価値をはじめ、環境共生や脱炭素、デジタル化などの新たな時代の潮流も強みにしながら、SDGsを羅針盤に、「一人一人の子どものために徹底的に大切に」本市教育の歩みを、さらに確かなものにしてまいります。

## 京都市教育委員会

※冊子に記載の数値は、令和6年度実績です。

※「小学校」または「(小)」等の表記がある場合には「小中学校(前期課程)」を、「中学校」または「(中)」等の表記がある場合には「小中学校(後期課程)」を含みます。



# 幼児教育と子育て支援の充実

「主体的に学び、考え、工夫する力」や  
「他者と協働的に行う力」を遊びの中で育む市立幼稚園

## 市立幼稚園の特色

- **主体的な遊び、発達にふさわしい生活、豊かな体験活動を大切にしています。**
- 興味・関心に基づいた直接的な体験や友達と十分に関わることを大切にし、夢中で遊び「感じる・考える・気付く・表現する」等の資質・能力の基礎を育みます。
- 小学校期の学びにつなぐ「学びに向かう力」を育みます。
- 生きる力の基盤となる基本的生活習慣を身につけることで自立し、自信を高め、自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性(折り合う心)を育みます。
- 京都の伝統文化体験や季節の節目が感じられる保育(祭り・茶道体験・節分等)、自然を味わう園外保育(京都御苑・大文字山等)や飼育・栽培活動などを大切にしています。

- **未就園児(0歳児～)の子育て支援事業・子育て相談、預かり保育を実施しています。**

- 地域の子どもと親同士を繋ぐ子育て支援事業の実施や子育て相談の場を提供しています。スクールカウンセラーも巡回しています。
- 全園で長期休業期間中を含む平日の早朝及び18時まで、預かり保育を実施しています。

- **「幼保小の架け橋プログラム」など小学校との連携・接続の積極的な推進、幼児教育の研究発信に努めています。**

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校の先生と共有するなど、子ども同士の交流、先生同士の連携、カリキュラムの接続に取り組み、各校園が相互関係を深め、教育・保育の質の向上を目指しています。また、幼児教育に関する研究を進め、公開保育・研究発表会の場で研究成果を広く発信しています。

- **社会生活とのかかわりを広げ、家庭や地域の方々と連携しています。**

幼児の生活をより豊かなものにするため、家庭や学校運営協議会などの地域の方々と連携しています。



市立幼稚園  
ホームページ



## 私立幼稚園に対する支援

- 市内幼稚園児の9割以上が通う私立幼稚園に対し、各園の特色ある教育活動、預かり保育、障害のある幼児に対する教育の推進などへの助成を行っています。
- 市内のほぼすべての私立幼稚園で、園庭等の開放を行ったり、保護者の子育てに関する相談を受けるなど、幼児の体験活動や保護者の子育てを支援しています。



## 子育て支援の充実

- こどもみらい館では、親子で遊べる「こども元気ランド」や「子育て図書館」、子育て相談や子育てサークルの情報発信など、乳幼児の子育てをあらゆる角度から支援しています。
- 妊娠期から思春期までの子どもを持つ保護者同士が、子育てをする中で感じている不安や悩みなどを語り合う、親支援プログラム「ほっこり子育てひろば」を実施しています。
- 児童館・乳幼児親子のつどいの広場といった地域子育て支援拠点等において、親子の居場所づくり、各種相談受付等の子育て支援、幼児・保護者同士の交流の場・機会の提供などを実施しています。



子育て支援ポータルサイト

**はぐくもKYOTO**

子育てのイベントや市の施策をPC・スマホで簡単入手!



# 市民と共に進める

## 京都ならではの 伝統文化教育・体験

令和5年3月の文化庁の京都移転も契機に、「世界文化自由都市・京都」ならではの伝統文化教育や体験活動を行っています。



「ほんもの」の伝統文化に触れ、豊かな人間性を育むとともに、次代の「担い手」「支え手」の育成を進めます。

### ● 茶道・華道体験の全校実施

- 小・中・高校で全ての児童生徒が茶道(小・高)・華道(中)を体験。



茶道体験

### ● 伝統文化体験の充実

- 外部機関と連携し、園児が伝統文化や伝統産業にふれる活動を実施。
- 小・中・総合支援学校へ和装・日本舞踊・能楽などの専門家を派遣。
- 「古典の日記念 京都市平安京創生館」(京都市生涯学習総合センター1階)では、ボランティアの解説により、平安京復元模型を基に、当時の様子を体感する学習を実施。
- 市立高校生の希望者に、妙心寺での坐禅体験会、金剛能楽堂での能楽鑑賞会を実施。

### ● 歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定

京都の伝統と文化を次代へ継承し、その魅力を発信できる子どもたちを育むため、独自テキストを小学4年生全員に配布。小学5年生に「基礎コース」、6年生に「発展コース」を実施するとともに、京都ならではの多彩な体験活動を実施。

また、「ジュニア京都検定」で育んだ興味・関心・知識をさらに深めるため、市内在住・府内在学の中高生を対象に「京都・観光文化検定試験(3級)」(主催:京都商工会議所)に無償でチャレンジできる機会を提供しています。

## DO YOU KYOTO? 環境モデル都市・京都での取組

2050年二酸化炭素排出量正味ゼロに向けた「1.5℃を目指す京都アピール」発信の地として、環境共生・脱炭素社会を支える担い手を育成しています。



### ● 環境にやさしい学校

全小・中学校でのSDGsの視点を盛り込んだ「新・環境宣言」やKES学校版(環境にやさしい学校)の全校認証を踏まえ、節電・節水、清掃活動などの取組を進めています。また、小学校では「こどもエコライフチャレンジ推進事業」や環境学習施設での体験学習に取り組んでいます。



南部クリーンセンター  
環境学習施設  
「さすてな京都」での学習

### ● 企業等による環境学習事業

京都商工会議所を通じて多くの企業に協力いただき、自社の環境技術や環境問題への取組をテーマとした授業を学校で実施しています。

## 「支え」「守り」「高める」 ボランティアの方々の活躍



### ● わたしたちの新しい先生 (学校支援ボランティア事業)

伝統文化・芸術・スポーツ等、様々な分野の豊富な知識や技能をもつ多くの方々に、子どもたちの教育活動がより豊かなものとなるようゲストティーチャーとして体験学習を支援いただいています(登録者数約900名)。

### ● 大学のまち京都で活躍する「学生ボランティア」

全国の143大学等との連携の下、教員を目指す学生や専門的知識・技能をもつ学生(約1,500名)が学校・幼稚園で授業や活動など様々な教育活動を支援しています。



学生ボランティアによる支援

### ● 見守り隊

全小中学校区で、約2万人の保護者や地域の方、学生、地元企業の方々に、通学路などで、登下校中の子どもたちの安全確保のための活動を日々展開していただいています。



## 産・学・公連携による取組

伝統産業から先端産業まで、様々な企業や多くの大学が所在する「京都の特色」を最大限活かし、産学公が連携した教育にも取り組んでいます。

### ● 京都教育懇話会

企業・大学・行政や市民等が集い、次代を担う「人づくり」について、様々な視点から議論を深め、新たな次世代教育モデル創造に向け、学び、研鑽し、そして、フォーラム等を通じて広く提言・情報発信しています。

### ● 京都芸術教育コンソーシアム

京都・滋賀の芸術系大学、京都市京セラ美術館等が参画する「京都芸術教育コンソーシアム～Art-e Kyoto(アルテ京都)～」では、豊かな創造性や表現力を育む芸術を軸とした教科横断的な学びなど、特色ある取組を進めています。

### ● 演劇教育

子どもたちのコミュニケーション能力や非認知能力の更なる向上のため、演劇の専門家の助言も得ながら、小・中学校において「演劇的手法を用いたワークショップ」を取り入れた授業などに取り組んでいます。



# 京都ならではの教育改革

## 興味・関心をのぼす 体験・学びの場

地域、企業、NPO等と連携の下、生活の中に伝統や文化が息づくなどの京都ならではの強みも生かしながら、子どもたちが、多様な体験活動等を通して社会や世界への興味関心を高め、夢中になって学ぶことができる環境づくりを推進しています。

### ● 社会に開かれた教育活動推進事業

地域、企業、NPO等との繋がりの中で、子ども達が多様な経験を通して学びを広げたり、学びを通じて得たことを社会に活かそうとする姿勢を育むために、学校運営協議会や保護者・地域等の協力の下、創意工夫を凝らした体験活動を支援しています。

### ● 宿泊学習・自然体験

小学5年生での「花背山の家」等における宿泊学習等を中心に、自然の中で集団活動等を行うことで、豊かな人間性を育みます。



### ● 大人みんなが子どもたちの学び育ちのために！ 「あつまれ！京（みやこ）わくわくのトビラ」

京都市内の未就学児や小・中学生及びその保護者に企業や大学、NPO等が実施する文化芸術・自然科学・スポーツ等の年間約3,000件の体験活動を、ホームページ及び広報紙で発信しています。



## 教育のデジタル・トランス フォーメーション(DX)に向けた取組

教育の情報化の観点から目指す子ども・教職員の姿や取組の道筋をまとめた「KYOTO×教育DXビジョン」を策定（令和5～7年度）。

一人一台端末等のICTを活用した学びを効果的に組み合わせ、全ての学習の基盤となる情報活用能力をはじめとする子どもの資質・能力の育成を図っています。

### ● ICTの活用を通じた学習活動の充実と学校への支援

子ども一人一人が、自分らしい学びを実現するために「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改善を行うことが重要です。そのために、学校では一つのデータを子どもたちが同時に編集できる機能を用いて、画面上で自分以外の意見と比較し、考えを深める授業の実践や端末を活用した家庭学習など、ICTを効果的に活用しています。

また、そうした取組を支援するために、学校のICTに関する困りをワンストップで受け付ける相談窓口（サポートデスク）を設置するとともに、ICT支援員が各学校を定期的に訪問し、学校現場でのICTを活用した積極的なチャレンジをきめ細かくサポートしています。

### ● デジタル社会の善き担い手の育成に向けた取組

社会のデジタル化が急速に進む中、デジタル技術の強みを正しく理解し、適切に活用しながら社会に参画しようとする姿勢や必要な力を育むデジタルシティズンシップ教育の理念を踏まえた取組を進めています。

### ● 誰一人取り残されない、個に応じた指導・支援の充実

子どもの障害や特性に応じた機器やアプリケーションの柔軟な活用、不登校の子どもへのオンラインでの支援など、ICTを積極的に活用し、誰一人取り残されない、個に応じた指導・支援の充実を図っています。

## 京都ならではの食育

### ● 食文化を継承する京都ならではの小学校給食

にしんなど、おからなど京都で受け継がれてきた伝統食や京野菜を取り入れた地産地消（知産知消）の献立、節分やひな祭りなど伝統行事にちなんだ献立、「だし」のうまみを味わえる献立など、給食回数の約6割で和食の献立を提供しています。

また、「和食」がユネスコの無形文化遺産に認定されたことを契機に、月1回程度「和食推進の日」を設定し、和食の特色を味わう「和（なごみ）献立」を実施するなど、給食を通して日本の伝統的な食文化を学ぶことを推進しています。

### ● 中学校給食の充実

現在実施している選択制中学校給食については、温かいメニューの開発や地産地消の推進などによる献立の充実、生徒から募集したレシピを実際に献立として提供する「中学校給食レシピアイデア募集」の実施など、全校設置の食教育主任を中心に、給食を「生きた教材」として活用した食育の推進等に取り組んでいます。また、給食センター方式を中心とした、食缶方式による温かい全員制中学校給食の実施に向けた取組を進めています。



給食時間

### ● 味覚を育てる手作りの献立

具から作るがんもどきや春巻き、ルーから作るカレーなど、素材の味を生かし、味覚を育てる手作りにこだわった給食を提供しています。

### ● プロから学ぶ食育

食の生産、流通、販売や食育に携わる関係機関との協働の下、小学生では「だし」のうまみや旬の食材の調理などを通して「京の食文化」を学び、中学校では、シェフの指導による調理実習を行っています。



和食の料理人による食育授業

### ● 栄養教諭の全校配置

食物アレルギーへの対応や食育の充実に向け、全ての小学校に栄養教諭（兼務）を配置しています。

## 「地元主導」で取り組む学校統合 新しい時代を創造する学校づくり

児童生徒数が減少している地域では、保護者や地域の方々と学校などが協働し、子どもたちのより良い教育環境づくりに向け学校統合を推進しています。

これまでに105の学校・幼稚園を29校園に統合し、充実した教育環境を実現しています。



令和7年4月開校  
洛西陵南小学校

令和7年4月開校  
栄桜小学校

## 子どもたちのかけがえのない命を 守りきる取組

事故の未然防止と緊急時の対応に適切に取り組めるよう、教職員一人一人の対応力と学校全体としての組織力を高めるため、「HANAモデル」と称する命を守りきる取組を全市で実施するなど、学校安全体制の確保に取り組んでいます。

また、子どもたちが生涯を通じて安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭、地域、関係機関等との連携の下、防犯、交通安全、防災に関する安全教育を推進しています。

# 小・中学校9年間

## 校種間連携の推進 「9年間の明確な教育目標」「系統的なカリキュラム」「継続性・一貫性のある指導体制」

- 小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を通した子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」に向けて、小中一貫教育を全市で実践しています。また、9年間の学びと育ちを一つの学校として支える「義務教育学校」を10校設置しています。
- 授業や学校行事等で、異年齢の交流ができるカリキュラムを設定することで、子どもたちがお互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育んだり、小学校と中学校の教職員が互いに授業や教育内容を学び合って指導力を高めたりするなど、義務教育9年間を見通した切れ目ない取組を進めています。
- 小学校等において、幼稚園・保育園(所)・認定こども園等の就学前施設との連携のもと、架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)の教育の充実を図るため、半日入学を含むスタートカリキュラムの充実や子ども同士の交流活動、授業改善など、各校の実態に即した「幼保小の架け橋プログラム」に取り組んでいます。



体育大会で小学生と一緒に競技する中学生

## 学力向上に向けた取組

### ● 京都市小中一貫学習支援プログラム

自学自習の習慣化と確かな学力の定着を図るため、予習⇒確認テスト⇒復習を1サイクルとした、小中一貫の学習支援プログラムを小学4年生から中学3年生の間に計13回実施しています。

### ● 自学自習のすすめ

「学びの基本」や「家庭での学習習慣を身につけるためのヒント」を示した「自学自習のすすめ」を小・中・総合支援学校に配布。日々の授業や京都市小中一貫学習支援プログラムと連動した家庭学習を促し、自学自習の習慣化を図ります。



### ● 教育ICT化の推進による学びの充実

- 一人一台端末などを積極的に活用し、「デジタルドリル」による習熟度及び自らのペースに応じた「個別最適な学び」や、「授業支援ソフト」による自らの考えを効率的・効果的に他者と共有し発展させる「協働的な学び」など、ICTの活用を通した子どもの学習活動の充実を図っています。
- 一人一台端末の日常的な活用や、発達段階に応じた系統的なプログラミング教育の実施等を通して、子どもたちが情報を主体的に捉え、活用し、多様な他者と協働しながら新たな問題を発見・解決していくために必要な情報活用能力の育成を図っています。



タブレット端末を活用した学習

## グローバルコミュニケーション力の育成

歴史都市・京都の魅力や子どもたちが自らの考えを世界に発信できる英語力の育成を進めています。

### ● グローバルコミュニケーション力育成プロジェクト

- 全小・中学校にALTを配置し、英語によるコミュニケーション能力の向上とともに、異文化理解・国際理解教育を進めています。
- 小学校では、1・2年生から英語活動を実施する等、国が定める標準を超えて外国語教育の充実を図っています。中学校では、英語4技能の確実な育成とともに、ALTを活用したパフォーマンス評価の実施等、新たな授業手法の研究のほか、外部試験費用の補助による学習意欲の醸成を進めています。
- 義務教育学校9年間を通じた実践的英語力の育成のため、ICT・副教材を活用した授業づくりや、授業外でALTとゲームやフリートークを楽しむ「English Cafe」などにも取り組んでいます。



英語による読み聞かせ

## 理科・科学好きな子どもを育てる

### ● 青少年科学センターでの学習

- 全市立学校の子どもたちを対象に実験室やプラネタリウム、展示場等を利用した理科学習を実施しています。
- 地球環境について立体的・視覚的に学べる「みらい地球儀」をはじめとする展示品の大学と協働した整備、先端技術を有する企業からの体験型展示品を活用した特別展や地域の企業との連携・支援に基づく展示品の更新、イベント開催、プラネタリウムの活用等、科学への関心や探究心を育む場として環境の充実に取り組んでいます。
- 自由研究の相談会やサイエンスコンテストを通して子どもたちの探究心をサポートしています。

### ● 未来のサイエンティスト養成事業

専門的な助言を受けながら自分の関心のあるテーマを研究したり、企業や大学等の実験教室に参加するなど、多くの機関と連携して、科学の不思議や面白さを体感できる機会を設けています。

### ● STEAM教育充実に向けた調査研究

伝統産業等をはじめとする文化的要素も取り入れた、京都ならではのSTEAM教育の充実に向け、有識者や市民代表等と科学センターの「使命」や「あるべき姿」について議論するとともに、教育環境充実に向けた調査・研究を進めます。





# の学びと育ち

## 道徳教育の充実

### ●「考え・議論する道徳」の実現

「京都市道徳教育振興市民会議」の提言(平成16年)を踏まえた、学校・家庭・地域が一体となった「開かれた道徳教育」を推進しています。

- 全小・中学校で、「道徳教育推進教師」を配置し、6月・10月を「道徳教育推進月間」として全学級で公開授業を実施しています。また、本市独自の指導計画や京都ゆかりの地域行事等を題材とした指導資料集の作成・活用も進めています。
- 道徳教育を通じて獲得できるコミュニケーションや思いやり等の非認知能力は、「生きる土台となる力」「生涯の学びを支える力」に深く関わることから、子どもたちが、道徳的課題を自分ごととしてとらえ向き合い、非認知能力の向上にも繋げられるよう、「考え・議論する道徳」に向けた取組の充実を図っています。

## 社会的・職業的自立に向けた 生き方探究教育(キャリア教育)

### ● 京都まなびの街生き方探究館

企業などの協力を得て、社会との関わりの中で自分らしい生き方を考える様々な体験学習を提供しています。

#### ● 京都モノづくりの殿堂・工房学習(小学生)

調べ学習や制作活動を通じてモノづくりを担う人々の情熱に触れ、興味関心を育み、夢に向かう意欲を醸成しています。

#### ● 「わくわくWORK LAND」(小学生)・「ジョイJOB LAND」(中学生)

小学生が模擬店舗での販売や新たな商品企画の仕事に取り組んだり、中学生が企業が直面する業務課題の解決策をまとめる実践体験等に取り組む体験型の学習プログラムを通じて、変化の激しい未来社会で必要な力を育んでいます。

#### ● 生き方探究・チャレンジ体験(中学生)

例年、3,000を超える事業所等の御協力の下、中学生が、3～5日間の職業体験・勤労体験活動を行っています。



京都モノづくりの殿堂・  
工房学習



わくわくWORK LAND

## 不登校や困りを抱えた児童生徒の 心の居場所づくりと支援

### ● こども相談センターパトナ

子どもたちの不安や悩み、保護者の心配や気かりの相談等について、50人を超えるカウンセラー等が相談に応じています。



こども相談センターパトナ

### ● 不登校児童生徒の学びと育ちの場

- 国の不登校対策「COCOLOプラン」を踏まえ、登校を望んでいる児童生徒が不登校にならないよう、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりの充実に取り組んでいます。
- 独自のカリキュラムで学ぶ学びの多様な学校として、「洛風中学校」「洛友中学校」の2校を設置。また、「洛友中学校」では様々な事情により義務教育を修了できなかった方等への教育保障を行う夜間部を設置し、学びの機会の確保に努めています。
- 市内5か所と3つのサテライトを設置する「ふれあいの杜」学習室では、学習支援やスポーツ、創作活動など、個々の状況に応じた支援に取り組んでいます。
- 教室に入りづらい児童生徒が安心して過ごせる「校内サポートルーム」の整備推進や、オンライン上の居場所づくり(メタバース)等、学校内外における多様な居場所づくりに取り組んでいます。

### ● スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置

臨床心理の専門職であるスクールカウンセラーを全校に、さらには社会福祉等の専門職であるスクールソーシャルワーカーを全中学校区に配置しています。

### ● 子どもや子育てに関する多様な相談窓口

こども相談24時間ホットライン(短縮ダイヤル#7333)、いじめメール相談、SNSを活用した相談など、子どもや子育てに関する多様な相談窓口を設けています。

こども相談24時間ホットライン  
#7333 受付:24時間0時  
年中無休  
ダイヤル回線、FAXでの受付は#075-351-7834におかけください。

### ● ヤングケアラーへの支援

京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例に基づき、ヤングケアラーの把握や学校生活への配慮、支援に向けて、関係機関との連携に努めます。

## 健やかな体づくり

### ● 体力向上に向けた取組

児童生徒の「新体力テスト」結果を踏まえた各校独自の体力向上の取組を実施しています。また、端末を用いて、市内の参加校同士で同一種目を競い合える「スポーツチャレンジ大会」等、ICTを活用した取組も進めています。

### ● 京キッズRUN

大文字駅伝に代わる取組として、市内の小学6年生が1,000mの持久走に挑戦しています。



京キッズRUN 本大会

### ● 部活動の地域展開

- 子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に触れられる豊かな環境づくりを目指して、部活動地域展開に向けた取組を推進しています。令和10年度以降は、中学校の部活動を廃止し、学校管理外の「地域クラブ活動」を創設した上で、学校管理内の「放課後活動」を実施する方向で検討を進めています。
- 令和6年度は実践研究として、近接する学校が合同で部活動を行うエリア制合同部活動や、大学と連携し、専門的指導ができる学生を顧問の補助として派遣いただく取組等を58の部で実施しています。



### ● 子どもの健全育成に向けた取組

薬物乱用防止教室の全小・中・高校での実施や、保護者への啓発活動、効果的な指導実施のための教職員研修の充実など、関係機関とも連携しながら、大麻などの薬物乱用防止に向けた取組を推進しています。

## 学習環境の整備

### ● バリアフリー化の推進

子どもの学習・生活の場、地域の活動拠点・避難所としてのバリアフリー環境の向上に向けて、スロープ等による段差解消をはじめ、今後一層の整備を進めます。

### ● 普通教室等の空調更新・学校体育館の空調整備

設置から約20年が経過した普通教室等の空調更新とともに、熱中症対策や避難所環境向上の観点から学校体育館への空調整備を計画的に進めていきます。

### ● 学校図書館の充実～第4次子ども読書活動推進計画～

- 全ての小・中学校に学校司書を配置し、読書活動の推進や、授業での学校図書館の活用を進めています。
- 学校図書館への新聞の複数紙配備(小2紙、中3紙、高5紙)を実施しています。



# 不断の改革を進め 飛躍し続ける市立高校

京都の高校教育の発展を目指し、先進的で魅力ある教育を創造します。

## 市立高校改革

- 市立高校では、普通科はもとより、工学、芸術などの多彩な専門学科を設置するなど、社会の変化を見通した全国に先駆けた学校改革を推進。中でも、堀川高校が、本市高校改革のパイロット校として取り組んできた「探究」の実践と成果は、今や京都はもとより、現行学習指導要領の中核の理念として全国に広がっています。

- 市立高校の存在意義や目指すべき学校像を示した「京都市立高等学校スクール・ミッション」に基づき、市立高校全校で「スクール・ポリシー」を策定。各校では、これらを基に魅力ある教育活動を展開し、高校生が自立した学習者として成長できるような学校づくりに取り組んでいます。
- 大学・企業が集積する京都の強みを活かし、京都ならではの市立・府立高校の連携、高大連携等により、探究学習やSTEAM教育を実践、更には起業家精神を醸成し、グローバルに活躍できる人材を育成します。

## 市立高校の主な取組

### ● 府市連携での探究学習の充実

令和6年度、新たに府市連携で高校生の探究学習の充実を図る「京の高校生探究パートナーシップ事業」を導入し、市立・府立高校の垣根を超え、高校生が探究学習の成果発表を通じて交流し、学びをより深める「京都探究エキスポ」を開催（51校、約1,100人が参加）。

令和7年度、新たに京都ならではの歴史的な文化財（ユニークベニュー）を舞台に、高校生と世界の第一線で活躍する方との交流を通じた少人数による探究学習を実施。



京都探究エキスポでの様子  
(発表会セッション)

### ● グローバル人材の育成

グローバル人材としての素地を養う「市立高校グローバルリーダー育成研修」を実施。市立高校生が、海外でのフィールドワークや協働活動など、多様な文化や価値観に触れる探究学習を実施。

令和7年度、海外で探究学習を実践する市立高校生に留学費用の一部を補助する「海外探Q留学」を新たに創設し、府市協調でグローバル人材の育成に取り組む。



海外の教育施設での  
子どもたちとの交流

### ● キャリア教育の推進

市立高校と産業界・大学等の連携を推進するための拠点「高等学校コンソーシアム京都」を設置。起業家による講演会やワークショップを行う「ゼロイチ・プロジェクト」やインターンシップへの支援、高校生と経営者が交流する「Joint S&E Forum」の開催など、高校生が学校外の多様な他者と対話する機会を創出し、キャリア意識の涵養に繋げています。

## 特色ある教育活動

### ● 西京高校・エンタープライジング科

本市が設置する唯一の中高一貫校として、「進取・敢為・独創」の校是の下、エンタープライズシップにあふれた未来社会をリードするグローバルリーダーを育成。

### ● 京都工学院高校・プロジェクト工学科／フロンティア理数科

文科省「スーパーサイエンスハイスクール」校として、科学・技術・工学・デザイン思考・数学を体系的に学ぶSTEAM教育を核とした教育活動を展開し、科学技術で社会に貢献する人材を育成。

### ● 堀川高校・人間探究科／自然探究科／普通科

「自立する18歳」の育成を最高目標とし、高校の現行学習指導要領のモデルでもある探究活動を通して、全国をリードする先進的な教育を推進。

### ● 日吉ヶ丘高校・単位制普通科

校内留学施設「英語村」をプラットフォームに、異文化理解や論理的思考力も含めた国際コミュニケーション能力の向上をはかり、「世界をつなぐ越境者」を育成。

### ● 紫野高校・普通科／アカデミア科

「ユネスコスクール」加盟校として、国際交流、異文化理解、環境教育の取組を推進し、探究学習を通じて「一歩踏み出すGlobal Citizen」を育成。

### ● 開建高校・ルミノベーション科

よりよい未来の創造を目指して、自ら考え行動する「協創者」を育成。普通教室4つ分の広さで80名が一斉に学ぶ「L-Pod」を拠点に、「問いから始まる授業」や、地域や大学、企業など多様な他者との対話、協働を中心とした探究学習を実施。

### ● 文化芸術都市・京都の芸術専門教育

#### ● 京都堀川音楽高校・音楽科

全国で唯一の音楽専門の公立高校として、音楽を愛する生徒一人一人の夢の実現に向け、最高の教育環境の下、「人とつながる音楽家」を育成。

#### ● 美術工芸高校・美術工芸科

「美術『を』を学ぶから、美術『で』を学ぶ学校へ」をコンセプトに掲げ、教科横断的な学び「BIKOsteAm」や、外部機関と連携した学びを推進。Creator Shipを育み、美術を通して社会に貢献する創造性豊かな自立した青年を育成。

### ● 多様なニーズに対応する定時制教育

#### ● 京都奏和高校・定時制単位制普通科

4部制の昼間定時制高校として、様々な困りを抱えた生徒たちに対して、少人数教育や専門家の配置等による充実したサポート体制の下、「集団で学ぶ」教育活動を通して、社会で自立する基礎となる力を育成。



西京高校  
海外／国内フィールドワーク



京都工学院高校  
STEAM「宇宙エレベーター」



堀川高校  
探究ポスター発表会



日吉ヶ丘高校  
英語村



紫野高校  
英語ディベート



開建高校  
「L-pod（ラーニングポッド）」



京都堀川音楽高校  
卒業演奏会



美術工芸高校  
美工作品展



京都奏和高校  
Make you smile 探究発表会



市立高校ホームページ  
<http://www.kyotocity-hs.jp/>

### ● 進学・就職実績(令和5(2023)年度卒業生)

- 生徒が自らの将来への一歩として、主体的に進路を選択し、実現しています。
- 全日制9校の1年制大学現役進学率72.6%(全国平均59.1%)
- 工業高1校・定時制2校の学校あわせ就職内定率100%(20年連続)

# 障害のある子どもへの教育の推進

## インクルーシブ教育の理念に基づく 一人一人のニーズに応じた教育の推進

### ● 総合支援学校を核としたきめ細かな教育の推進

平成16年4月、国の制度化に先駆け、全国初の「総合制」養護学校（現・総合支援学校）として再編・開校。一人一人のニーズに応じた「個別の包括支援プラン」を活用したきめ細かな教育を推進するとともに、総合育成支援教育相談センター「育（はぐくみ）支援センター」を全9校に開設し、障害のある子ども・保護者への教育相談、就学の相談や小・中学校等へのサポートを行っています。

また、呉竹総合支援学校の再整備、北総合支援学校中央分校の開校、西総合支援学校の校舎増築等、障害の重度・重複化及び多様化に対応する学習環境の整備を進めています。

### ● 育成学級（特別支援学級）の設置充実

対象となる児童生徒が一人であっても地域の小・中学校に障害種別ごとに育成学級を設置し、一人一人の子どもの障害や発達の状態、特性等に合わせた「個別の指導計画」に基づいた指導を行っています。

### ● 交流及び共同学習の推進について

総合支援学校・育成学級と普通学級の児童生徒が共に活動することを通じて、社会性及豊かな人間性を育むとともに、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向け、学校行事への参加やICTを活用した交流等、児童生徒・保護者の願いを踏まえた「交流及び共同学習」を積極的に進めています。

### ● 通級指導の充実

発達障害のある児童生徒の指導を行う「LD等通級指導教室」、言語や聴覚に障害のある児童の指導を行う「ことばときこえの教室」、弱視児童への指導を行う「弱視教室」を設置しています。「LD等通級指導教室」については小・中学校132校に設置（設置率は政令市トップクラスの58.1%）しており、経験の浅い教職員に対しては「小中通級支援チーム」によるサポートを行っています。また、高等学校においては、通級指導のほか、「高校通級特別支援チーム」による巡回相談などの取組を進めています。

### ● 発達障害等支援の必要な子どもへの支援の充実

発達障害等支援の必要な子どもの特性や、幼稚園や保育園（所）等での配慮・支援の情報を小学校に伝える「就学支援シート」事業を、市内全ての就学前施設と連携して実施しています。

また、学習補助や介助を行う「総合育成支援員」を希望する全ての学校・幼稚園に配置するとともに、『授業・学級・学校づくりのユニバーサルデザインチェック表』や『発達の特性等によって困りのある中高生のための指導・支援ガイド』を活用しながら、「個別の指導計画」を必要とする全ての子どもに作成し、支援の必要な子どもへのニーズに応じた指導・支援の充実を図っています。

さらに教職員に対し、大学教授等の外部講師を招き、ICT活用も含めた実践事例を交えた指導・支援方法を学ぶ研修や、外部の専門家が学校・幼稚園に訪問し、指導・助言を行う「学校コンサルテーション」などを実施し、専門性の向上を図っています。

### ● ICT活用による支援の充実

会話をリアルタイムに文字化できるアプリや、音声と文字を同時再生できる「デージー教科書」、読み書き等を支援する様々な支援機器・グッズ、入出力支援装置等の活用など、障害のある子どもたち一人一人の困りに応じた支援に積極的に取り組んでいます。

### ● 長期病気療養児への教育保障

入院や自宅療養中の児童生徒に対しては、桃陽総合支援学校の本校・分教室での授業や訪問教育を実施するとともに、ICT機器等を活用し、オンラインで他の児童生徒と共に学習・交流するなどの取組を実施しています。また、高校段階の生徒への支援も進め、一定条件の下で在籍校での単位認定を実現するなど、学習機会の確保や治療・復学後の生活への不安解消を図っています。

### ● 医療的ケアの必要な子どもへの支援

医療的ケア児が増加傾向にある中、地域制総合支援学校においては、看護師免許を持つ医療的ケア（自立活動）担当教員の独自採用や、スクールバスへの乗車が困難な医療的ケア児を対象とした通学支援を実施しています。さらに、各地域制総合支援学校を拠点としたチーム体制による小・中学校等への看護師派遣制度の導入など、より安心安全で安定的な支援体制の構築を進めています。

### ● 白河、東山及び鳴滝総合支援学校高等部職業学科での職業教育の充実

企業や関係団体と連携し、学校での学習と企業での3年間で約30週間の職場実習を組み合わせた「デュアルシステム」や、地域協働の取組等を通して職業教育を推進し、毎年、高い就職率を達成しています。



北総合支援学校中央分校の開校



入出力支援装置の活用の様子



職業学科での実習の様子



# 京都市青少年科学センターの概要



資料5-3

## ● 概況

- ・ 1969年5月、「『科学者精神』を体得した将来の市民の育成」を目的として現在地に設立。前身は、戦後に科学教育振興の先駆けとして大きな役割を果たした「科学教室」（1951年設置）。
- ・ 2025年3月、博物館法に定められる博物館に登録（1979年、博物館に相当する施設に指定）。
- ・ 子どもたちの理科教育や市民の生涯学習の振興に向け、多くの大学や企業団体等との連携・協働、御支援を賜りながら、「センター学習」や「教員研修・学校等支援」、「市民科学事業」など、様々な取組を推進。
- ・ 展示場の一般入館者数は年間で約14万人（その他、センター学習等での来館者あり）。

所在地：京都市伏見区深草池ノ内町13



[地下鉄竹田駅から東へ約1km、京阪本線藤森駅から西へ約400m]

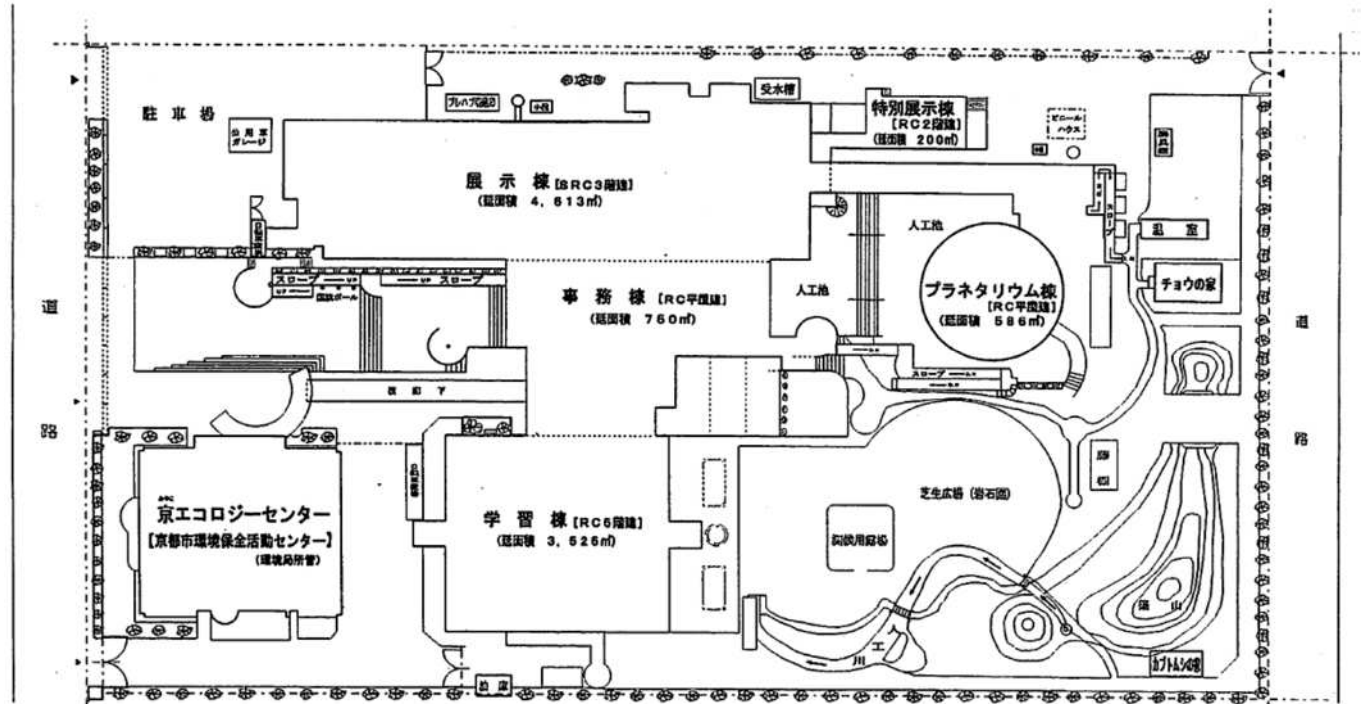


## ● 施設について

- ・ 用途地域 第1種住居専用地域、容積率 200%、建蔽率 60%、高度地区 20m第2種高度地区
- ・ 敷地面積 17,408㎡、延床面積 9,674㎡（鉄筋コンクリート造地上3階）、屋外園 5,200㎡
- ・ 1969年竣工。指定都市の科学館15館の中では一番古い施設（設備）。目標耐用年数は80年。

### <建物等の主な内容>

- ・ 学習棟 3,525㎡  
実験室、天文台など
- ・ 展示棟 4,813㎡  
展示スペース（2,030㎡）など
- ・ プラネタリウム棟 586㎡
- ・ 事務棟 750㎡
- ・ 屋外園 5,200㎡  
チョウの家、カブトムシ飼育所等



## ● 主な事業について

主な事業	内容
センター学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼稚園、保育所、小学校、中学校、高校、総合支援学校段階の子どもが、学校教育活動の一環として来館し、独自の教材やプログラムを用いて実施する観察実験学習。 [小学校6年生は全校参加]</li> </ul>
教員研修・学校等支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校教員等を対象とし、観察実験の基本的な実技や効果的で安全な指導法など、年間20種類以上のメニューで研修を実施。</li> <li>観察実験の補助等を行うスタッフの派遣や指導等に関するアドバイス、教材貸出など、理科教育の充実に向けた学校への支援を実施。</li> </ul>
市民科学事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の科学に対する興味関心を高めるため、展示場やプラネタリウムの公開、市民向けの各種講座を実施</li> </ul>

一般入館者数等の推移

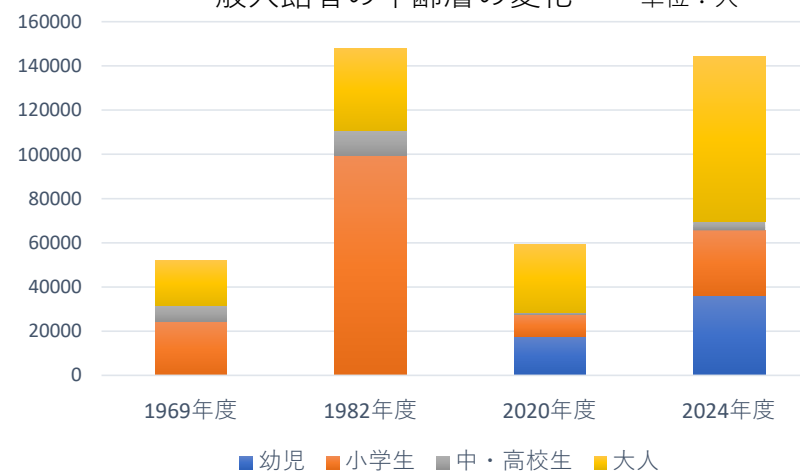
単位：人

年度		1969	1982	2018	2020	2024
展示場一般入館者数		51,957	147,999	133,304	59,453	144,305
内 訳	幼児	－	－	34,981	17,598	36,101
	小学生	24,321	99,326	33,680	9,852	29,593
	中・高校生	7,436	11,398	3,318	1,141	3,943
	大人	20,200	37,275	61,325	30,862	74,668
	(親子ふれあいSR)	－	－	(28,744)	(12,980)	(34,628)
＜参考＞						
プラネタリウム観覧者		39,606	115,667	66,707	16,536	70,314
センター学習		70,139	84,966	31,895	44	25,043

※ 親子ふれあいSR（サイエンスルーム）：乳幼児と保護者が、科学的な遊具や本などにふれあい、科学の不思議や面白さを体験する場。（2012年度に開設）

一般入館者の年齢層の変化

単位：人



## ● 特色ある取組について

- 多様な企業団体等との連携・協働により、事業の対象は、サイエンスを基軸に、伝統産業や芸術など他の分野を包摂するものへと広がっています。

### ○ STEAM LAB.

- JRA騎手クリストフ・ルメール氏とのトークセッション
- バレンタイン プラネタリウムコンサート  
(京都市交響楽団×星空)

### ○ おとなのセンター学習

- 日本酒の科学 ～酵母の不思議～

「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録を契機に企画。  
京都酵母を開発した京都市産業技術研究所と連携。  
アルコールの性質に関する実験を通じて酵母の働きを学ぶ。

### ○ 科学×京都の伝統産業×伝統工芸

- 金箔、和ろうそく、京コマ



京コマ職人が講師。  
コマが回る物理法則を学びつつ、  
京コマを製作。

## ● 多様な主体との主な連携・協働について

連携手法	連携主体・内容
包括連携協定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>(株)村田製作所「STEAM教育を通じて次世代を育成するパートナー」</u> <b>【2023年度から10年間】</b> ⇒ 展示場や体験事業等の充実支援。毎年1千万円、合計1億円の寄付。</li> <li>・ <u>武田薬品工業(株)京都薬用植物園「教育活動の推進」</u> <b>【2024年度から3年間】</b> ⇒ 屋外園整備や教員研修の充実支援。</li> <li>・ <u>京都市動物園、京都府立植物園、京都水族館「きょうと☆いのちかがやく博物館」</u> <b>【2014年度～】</b> ⇒ 連携イベントの実施。</li> </ul>
体験講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>未来のサイエンティスト養成事業「体験コース」における協力企業・団体</u> <b>【2024年度実績】</b> 大阪ガスネットワーク(株)、京都大学大学院医学研究科ゲノム医療学講座、京都大学iPS細胞研究所、(株)サイフューズ、テラスエナジー(株)、さすてな京都、(株)島津製作所、清水長金属工業(株)、ナカライテスク(株)、ニデック(株)、(株)村田製作所、京都市衛生環境研究所、京都市上下水道局</li> </ul>
企業特別展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>企業特別展における協力企業</u> <b>【2013～2024年度実績】</b> ニチコン(株)、京セラ(株)、オムロン(株)、ローム(株)、(株)堀場製作所、三洋化成工業(株)、タキイ種苗(株)、(株)SCREENホールディングス、(株)村田製作所</li> </ul>
協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>京都市科学系博物館等連絡協議会</u> <b>【26団体が加盟】</b> ⇒ 青少年科学センターが事務局となり、毎年、サイエンスフェスティバル等を開催</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>標本研究における連携</u> 大阪市立自然史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館</li> </ul>



# ウェルビーイングとは何か

## 新しい「ものさし」・コンセプト

- ▶ 経済だけではなく  
こころの充足、生活への評価・感情・価値、健康まで

幸せとウェルビーイングの違い

Happiness = 短期的・個人的な感情状態

Well-being = 個人 + 個人をとりまく「場」が持続的によい状態であること

包括的コンセプト

自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む地域・学校が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えること



## ウェルビーイングの深化

今が楽しい

(個人・現在)

これからの将来に希望を持てる

(個人・将来展望)

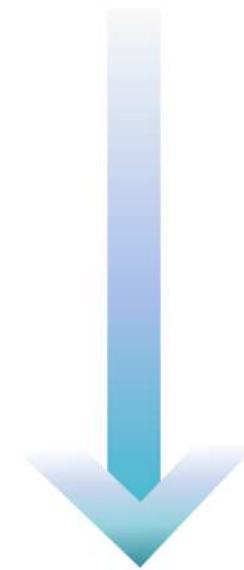
クラスや地域の人々の幸せを願う

(社会・共生)

この町・学校・世界を良くしていきたい

(利他性・公共・持続)

ウェルビーイングの深化



## 二つのタイプの幸福

### 獲得系

- 自分で道を開拓
- 自己実現

これまで私は  
望んだものは手に  
入れてきた

### 協調系

- 他者との調和
- 自然や地域との共生

大切な人を幸せに  
していると思う

## ➤ 全国学力・学習状況調査質問紙によるウェルビーイングに関する調査結果

※ %は肯定的な回答の割合

獲得的要素	【自分には、よいところがあると思いますか】	
	小：83.5%（全国：84.1%）	中：83.5%（全国：83.3%）
	【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】	
	小：90.3%（全国：89.9%）	中：90.5%（全国：90.4%）
	【将来の夢や目標を持っていますか】	
	小：84.1%（全国：82.4%）	中：65.4%（全国：66.3%）
	【学校に行くのは楽しいと思いますか】	
協調的要素	小：86.3%（全国：84.8%）	中：86.1%（全国：83.8%）
	【普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか】	
	小：92.3%（全国：91.7%）	中：92.0%（全国：89.8%）
	【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】	
協調的要素	小：96.2%（全国：95.9%）	中：95.8%（全国：95.2%）
	【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか】	
	小：84.5%（全国：83.5%）	中：75.8%（全国：76.1%）

（参考）令和6年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査

（考察）

- ◆個人が獲得・達成する能力や状態に基づく**獲得的要素**、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの**協調的要素**に基づくウェルビーイングとも、およそ8割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。また、京都市は全国と比べ、数値が高い傾向にある。
- ◆獲得的要素については、**中学生段階に至ると「将来の夢や目標を持つ」子どもの割合が低くなること**、協調的要素について、「人の役に立つ人間になりたい」と思う子どもの割合に比べ、「**地域や社会をよくするために何かしてみたい**」と思う子どもの割合は低く、**子どもの思いが公共性にまで至っていない**とも考察できる。教育活動を通じて、これらの指標を上げていくことが求められる。

# STEAM教育の概念、変遷等について

資料6-2

## ● 米国におけるSTEAM教育の変遷

時期	内容	特徴
2000年代初頭	STEM教育の導入	<ul style="list-style-type: none"><li>・ グローバル競争を背景に、科学技術人材の国家的育成策として始動。</li><li>・ STEM教育支援の法的枠組みが整備される。</li></ul>
2009年～	STEM教育を国家戦略に位置づけ	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 国をあげてSTEM教育の強化を図る「Educate to Innovate」キャンペーンが展開。</li></ul>
2010年代中盤～	STEAMへの拡張（Artsの導入）	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 「科学や工学に創造性と人間性を取り戻すべき」との主張が支持され始める。</li><li>・ STEAM教育を州レベルで正式導入する動きが拡大。教育の幅が拡張。</li></ul>
2019年～	「STEAM法」制定	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 連邦レベルでArtsを含む教育支援の法的枠組みが整備される。</li><li>・ 教育機関や博物館などでSTEAMプログラムが広く展開されるようになる。</li></ul>



## ● わが国におけるSTEAM教育の概念の例(その1)

### ○ 統合型のSTEM教育

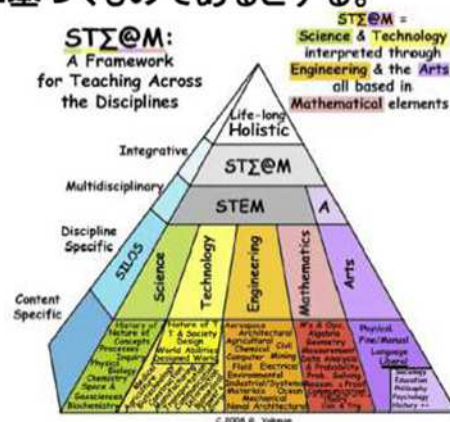
Science、Technology、Engineering、MathematicsのSTEM分野が複雑に関係する現代社会の問題を、**各教科・領域固有の知識や考え方を統合的に働かせて**解決する学習としての共通性を持ちつつ、その目的として①科学・技術分野の経済的成長や革新・創造に特化した人材育成を志向するものと、②すべての児童生徒に対する市民としてのリテラシーの育成を志向するものがある。

### ○ STEAM教育—アート、リベラルアーツ、文理の枠を超えた学び—

◆ 初期のSTEAM教育は、**統合型STEM教育にArts(デザイン、感性等)の要素を加えたもの**と解釈できる。Yakman(2008)では、STEAM教育は学問領域を横断して指導する枠組みであると示している。また、STEAM教育は、エンジニアリングとアーツ(言語や歴史などを含む文科)を通して解釈される科学と技術であり、すべては数学的な要素に基づくものであるとする。

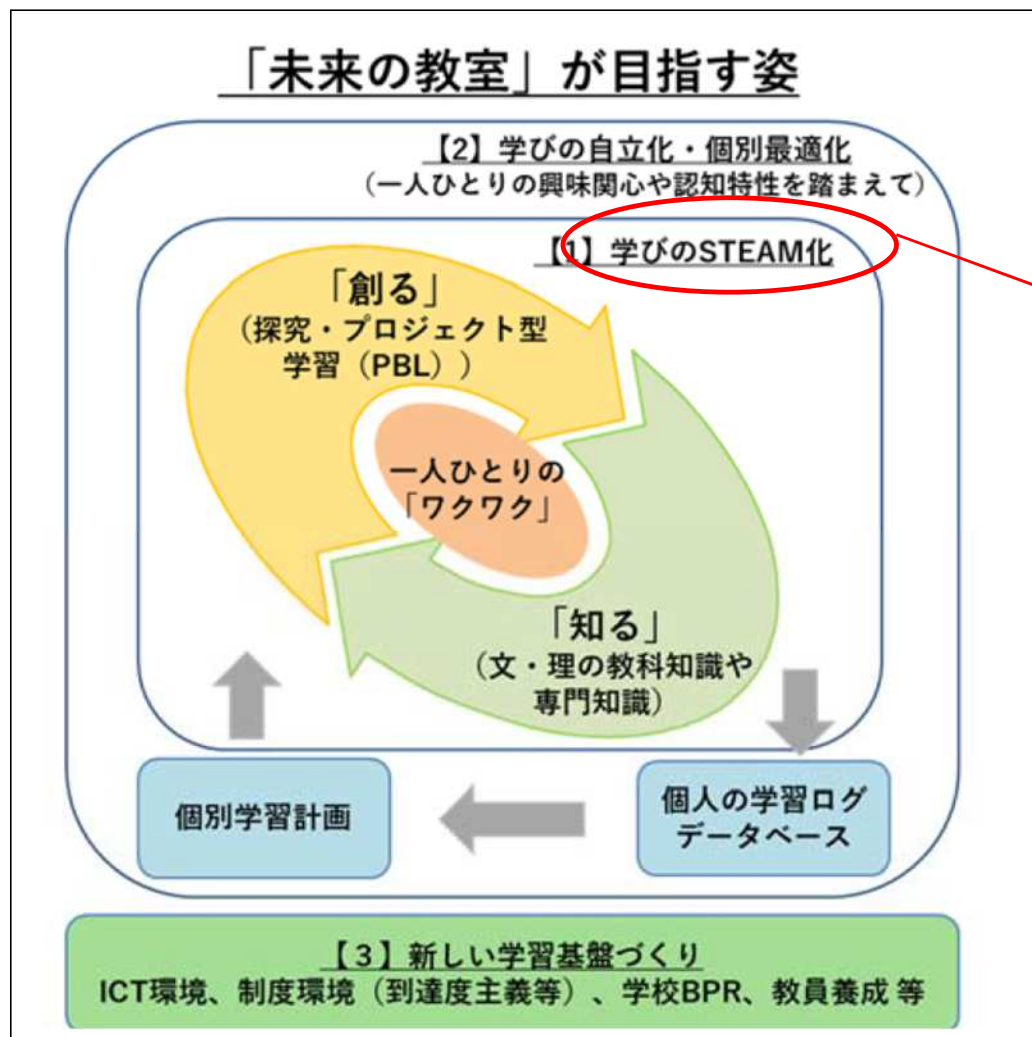
◆ 近年は、現実社会の問題を創造的に解決する学習を進める上で、あらゆる問いを立てるために、Liberal Arts(A)の考え方に基づいて、自由に考えるための手段を含む**美術、音楽、文学、歴史に関わる学習**などを取り入れるなどSTEM教育を広く横断的に推進していく教育(東京学芸大学 大谷 忠氏より)。

◆ 取り扱う社会的課題によって、S・T・E・Mを幹にして、ART/DESIGNやROBOTICS、E-STEM(環境)など様々な領域を含んだ派生形が存在し、さらには国語や社会に関する課題もあり、いわゆる**文系、理系の枠を超えた学び**となっている(日本STEM教育学会 新井 健一氏より)。



(出典)「STEAM教育等の教科等横断的な学習の推進について」(文部科学省)より

## ● わが国におけるSTEAM教育の概念の例(その2)



### 【1】 学びのSTEAM化

一人ひとり違うワクワクを核に、「知る」と「創る」が循環する、文理融合の学びに

子ども達が未来に向けた様々な社会課題等に触れ、ワクワクする感覚を呼び覚まされる、また、文理を問わず必要な教科知識・専門知識の効率的な習得（「知る」と、探究・プロジェクト型学習（PBL）による課題発見・解決の試行錯誤（「創る」）が循環する学びに。

名称	所在国	コンセプト	頁
日本科学未来館	日本	科学技術を文化として捉え、社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、すべての人々に開かれた場	2
ボストン科学博物館	米国	全ての人に科学を。STEMの教育と普及を通じて子どもから大人まで科学への理解と好奇心を育てる。学びと遊びの融合を目指す。	3
サイエンス・ミュージアム	英国	受賞歴ある展示、象徴的な所蔵品、驚きに満ちた科学の物語を発見しよう	4
アルスエレクトロニカ・センター	オーストリア	未来的分野への刺激的でインスピレーションに満ちた探険へ来館者を誘う	5
深圳科学技術博物館	中国	デジタル文明×イノベーション	6



# 日本科学未来館

## ● 一般情報

- ・ 館種 科学館（科学館・体験型・未来）
- ・ 設立主体 国立研究開発法人科学技術振興機構
- ・ 所在地 東京都江東区青海2-3-6
- ・ 開館 2001年7月
- ・ 施設規模 延床面積40,589㎡

## ● コンセプト

科学技術を文化として捉え、社会に対する役割と未来の可能性について考え、語り合うための、すべての人々にひらかれた場

## ● 展示テーマ

- ・ 地球とつながる 地球を感じる・地球を探る・地球を解析する
- ・ 未来をつくる ロボット・情報・イノベーション
- ・ 世界をさぐる 宇宙・地球・生命

## ● 主な設備

常設展示室、企画展示室、多目的ルーム、キッズスペース（おや？っこひろば）、ドームシアター、ミュージアムショップ、展望ラウンジ（レストラン）、研究エリア

## ● 特徴（ポイント）

### 先進的なテーマの常設展



常設展示の多くがロボット、脳科学、環境など先進的な科学技術をテーマとしており、それらのテーマをわかりやすい体験として展示している。常設展示はコーナーごとに更新される。

### 多彩な自主企画展



年に複数回の企画展を開催しており、その多くが未来館が自主企画した企画展。未来への問いかけや、時間、工事現場、忍者など多彩なテーマの企画展を開催、巡回展となるものもある。

### 科学コミュニケーターの役割



館において、来館者との対話や展示・イベント企画を通じて科学の面白さを伝え、一般の人々の疑問や意見を研究者に届ける、科学と社会をつなぐ架け橋として活動している。

### 市民参加型の研究



インクルーシブな未来社会の実現を目指して、アクセシビリティ技術の研究開発を外部の研究機関等と共同で推進。市民が参画するオープンラボなども運営している。



外観



Geo-Cosmos（ジオ・コスモス）



"おや？"っこひろば



常設展示「計算機と自然、計算機の自然」



# Museum of Science, Boston (ボストン科学博物館)

## ● 一般情報

- ・ 館種 科学館 (総合)
- ・ 設立主体 ボストン科学博物館財団 (Museum of Science, Inc.) ※非営利団体
- ・ 所在地 1 Science Park, Boston, Massachusetts 02114, USA  
チャールズ川沿い (ボストンとケンブリッジの間)
- ・ 開館 1830年 (前身は「ボストン自然史協会」、1951年に現在の施設として再開館)
- ・ 施設規模 推定延床面積: 約12,000 m<sup>2</sup>以上

## ● コンセプト

### 「すべての人に科学を」

科学・工学・技術・数学 (STEM) の教育と普及を通じて、子どもから大人までに科学への理解と好奇心を育てる。

体験型・対話型の展示を重視し、学びと遊びの融合を目指す。

## ● 展示テーマ

The Art of Illusion (錯覚のアート)、Perception Playground (知覚プレイグラウンド)、Exploring AI: Making the Invisible Visible (AIを探索: 見えないものを可視化する)、Innovation: Earth (イノベーション: 地球)、Cosmic Light (コズミックライト)、New England Habitats (ニューイングランドの生息地)、imPRINTING: The Artist's Brain (芸術家の脳: 印象を刻む)、Hall of Human Life (人間の生命の回廊)、Arctic Adventure: Exploring with Technology (「北極の冒険: テクノロジーで探る」) など

## ● 主な設備

チャールズ・ヘイデン・プラネタリウム (Charles Hayden Planetarium)、ムガー・オムニ・シアター (Mugar Omni Theater) ※ドーム型IMAXシアター、ライブアニマルケアセンター (Live Animal Care Center) ※動物の飼育展示、展示ホール、ワークショップスペース、屋外ロックガーデン

## ● 特徴 (ポイント)

動物飼育展示と科学展示が融合したユニークな展示



約120頭の動物を飼育・展示するLive Animal Centerが館内に併設されており、博物館でリアルな生き物とのふれあいができるユニークな展示となっている。

STEAM展示・学習プログラム



体験型展示や「Engineering Design Workshop」などを通じて学べる場や、幼児から高校生、教育者までを対象にした多様な学習プログラム等を実施し、STEAM教育に力をいれている。

最先端の展示と没入型体験



AI、再生可能エネルギー、宇宙、錯覚など、最新科学をテーマとした展示が充実。また、Mugar Omni Theaterでは、科学ドキュメンタリーを180°映像で上映している。

実験ライブパフォーマンスでの教育エンタメ



Lightning! (雷ショー) や、Tesla Coils! (テスラコイルショー)、Supercold Science (超低温実験) 等、専門スタッフによるライブ解説付きの科学実験ショーを毎日実施している。



外観



常設展「Arctic Adventure: Exploring with Technology」



巨大化石: トリケラトプスの崖



没入型シアター「Mugar Omni Theater」

# Science Museum (サイエンス・ミュージアム)

## ● 一般情報

- ・ 館種 科学館 (総合・STEAM・体験型)
- ・ 設立主体 1857年、ロイヤル・ソサエティ・オブ・アーツ等による南ケンジントン博物館の科学コレクションとして創設。1909年に独立館化。
- ・ 所在地 Exhibition Road, South Kensington, London SW7 2DD  
(イギリス ロンドン市)
- ・ 開館 1909年6月26日に科学館として独立 (設立は1857年)
- ・ 施設規模 不明

## ● コンセプト

“Discover award-winning exhibitions, iconic objects and stories of incredible scientific achievement” (意訳: 受賞歴ある展示、象徴的な所蔵品、驚きに満ちた科学の物語を発見しよう)

## ● 展示テーマ

Energy Hall エネルギーホール (蒸気機関と産業革命)、Exploring Space 宇宙探査 (人類の宇宙開発の歴史)、Making the Modern World 現代世界の創造 (近代化を支えた科学技術の進化)、Medicine: The Wellcome Galleries 医学: ウェルカム・ギャラリー (医学の歴史と未来)、Mathematics: The Winton Gallery 数学: ウィントン・ギャラリー (数学が形作る世界)、Wonderlab: The Equinox Gallery ワンダーラボ: エクイノール・ギャラリー (体験型科学実験とショー)、Flight フライト (航空の歴史と飛行機の進化)、Information Age 情報時代 (通信とデジタル技術の発展)、The Clockmakers' Museum クロックメーカーズ・ミュージアム (時計と時間計測の歴史)

## ● 主な設備

常設展示スペース、企画展示スペース、インタラクティブ体験ギャラリー、IMAXシアター、カフェ・レストラン、バリアフリー設備 (ステップフリー対応、車いす利用施設等)

## ● 特徴 (ポイント)

### 歴史的遺産 × 未来志向の融合



蒸気機関 (ワットのベームエンジン) やアポロ10号の司令船、DNA二重螺旋モデルなど、人類の科学史の転換点を物理的に体感できる一方で、再生可能エネルギーやAI・宇宙探査など未来科学にも焦点を当てており、過去と未来をつなぐ展示構成が強み。

### STEAM教育の実践場



例えば、Wonderlabは「見るだけでなく、触って実験する」を主軸としたSTEAM型学習スペースとなっている。小学生～中高生向けに構成され、体験型科学館のモデルケースとして国際的にも評価されている。また、Power Up!は、150台以上のゲーム機で「遊びを通じたテクノロジー理解」を促す異色展示となっている。

### 世界最大規模の科学コレクションと公開姿勢



約700万点の所蔵品を持ち、オンラインアーカイブも充実。デジタル公開と教育利用が進んでおり、学術・教育・一般市民向けに等しく開かれた施設となっている。

### 大人向けの夜間科学イベント「Lates」



毎月最終水曜日に開催される夜の開館イベント (18歳以上対象)。サイレントディスコ・科学×社会を考えるトーク・クラフト体験など、「大人の知的遊び場」として英国カルチャーに根差している。



外観



The Forces zoneでの摩擦滑り



常設展示「Medicine: The Wellcome Galleries」



常設展示「Mathematics: The Winton Gallery」



# Ars Electronica Center (アルスエレクトロニカ・センター)

## ● 一般情報

- ・ 館種                   メディアアート & テクノロジーセンター
- ・ 設立主体           Ars Electronica GmbH (アルス・エレクトロニカ株式会社)
- ・ 所在地              Ars-Electronica-Straße 1, 4040 Linz, Austria  
(オーストリア・リンツ)
- ・ 開館                初開館：1996年  
                          大規模改築・リニューアル：2009年
- ・ 施設規模           延床面積約9,200 m<sup>2</sup> (建物全体、ツインタワー含む)

## ● コンセプト

人工知能と神経科学、ロボティクスと自動移動技術、遺伝子工学とバイオテクノロジーといった未来的分野への刺激的でインスピレーションに満ちた探険へ、来館者を誘う。

## ● 展示テーマ

Understanding AI (人工知能の理解)、Connected Earth (つながる地球)、Inside the ISS (国際宇宙ステーションの内部)、Neuro Lab ニューロラボ (脳と神経の研究所)、Bio Lab バイオラボ (生命科学研究所)、Robotics Lab ロボティクスラボ (ロボット研究所)、Fab Lab ファブラボ (デジタルものづくり工房)

## ● 主な設備

体験型の先端技術展示、没入型シアター、子ども向けの実験・体験ラボ、教育・ワークショップスペース、ショップ、カフェ、レストラン



外観



没入型シアター「Deep Space 8K」



常設展示「Connected Earth」



子ども向けの実験・体験ラボ  
「Kids' Research Laboratory」

## ● 特徴 (ポイント)

### テクノロジー × アートの融合



世界最大級のメディアアートの祭典「Ars Electronica Festival」の開催地でもあり、世界中のアーティスト、研究者、科学者が集い、AI、バイオ、ロボティクスなどをテーマにしたアート作品を発表・議論している。

### R&D機能の併設



研究開発部門「Futurelab」が併設され、AIやバイオアートなど先端技術とアートの融合を通じて、STEAM教育の実践や創造的思考の育成に取り組んでいる。展示やワークショップは市民参加型で、企業・大学との共同研究や社会課題へのアプローチも行っている。

### 国際的な発信力



毎年開催される国際的メディアアート祭「Ars Electronica Festival」や世界的コンペ「Prix Ars Electronica」を通じて、最先端のテクノロジーとアートを発信。各国の科学館や大学と連携し、展示や教育プロジェクトをグローバルに展開。

### 様々な年代が楽しめるインタラクティブ展示の充実



来館者が直接操作し体験できるインタラクティブ展示が豊富。巨大な8K映像空間「Deep Space 8K」や、脳波で音楽を作る装置などを通じて、科学技術やアートを直感的に学べる。子どもから大人まで楽しめる参加型展示が特徴。

# Shenzhen Science & Technology Museum (深圳科学技術博物館)

## ● 一般情報

- ・ 館種 科学館（総合・体験型）
- ・ 設立主体 深圳市（光明区）および深圳市公共工程局
- ・ 所在地 広東省深圳市光明区光輝大道8号（地下鉄6号線「光明駅」直結）
- ・ 開館 2025年5月1日
- ・ 施設規模 延床面積約 128,300 m<sup>2</sup>

## ● コンセプト

「デジタル文明×イノベーション」をテーマに、科学の力と技術革新が未来を形づくる様子を展示。都市とつながる有機的なボリュームとダイナミックな屋外テラスを持つ。

## ● 展示テーマ

「数字文明・創新・未来」をテーマに、4つの常設展と多彩な企画展を展開しています。常設展は以下の4つのテーマで構成されています

你好，世界（Hello, World）：デジタル文明の象徴的展示

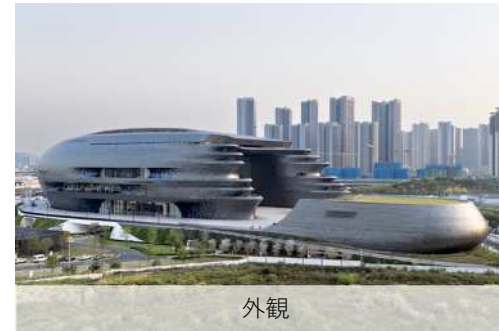
美好生活（素敵な生活）：AI、大模型ロボット、コミュニケーション・日常生活のスマート技術展示

智慧产业（スマート産業）：ロジスティクス、スマート医療、リモート手術シミュレータなど

宇宙探源（宇宙探査）：宇宙、航空、遺伝子、天文学など、フロンティアサイエンス展示

## ● 主な設備

展示ギャラリー、没入型シアター／映画館、研究ラボ&教育施設＋イノベーションセンター、訪客支援・サービス施設、中央アトリウム、屋外テラス



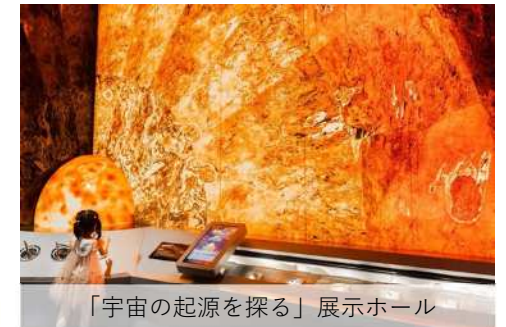
外観



アトリウム



常設展「你好，世界（Hello, World）」



「宇宙の起源を探る」展示ホール

## ● 特徴（ポイント）

### 新技術で形成するファサード



ファサードには新技術の「デュアルカラーINCO技術」を中国で初めて大規模に採用。天候や腐食に対する耐性を高め、寿命を延長するとともに、塗装なしでステンレス鋼に繊細な質感と色調を付与している。

### STEAM教育ワークショップ



STEAM教育を体感できる実践的なワークショップや、科学ショー＆ロボット実演などの、科学パフォーマンスなどが充実している。

### 最新科学技術や社会的テーマに焦点をあてた企画展



最新の科学技術や社会的テーマに焦点を当てた期間限定の企画展を定期的に開催。

### 科学教育や自然探求をテーマにした映画の上映



特効シアター（特效影院）にて、最新の視覚技術を駆使した映画が上映されており、来館者に臨場感あふれる体験を提供している。